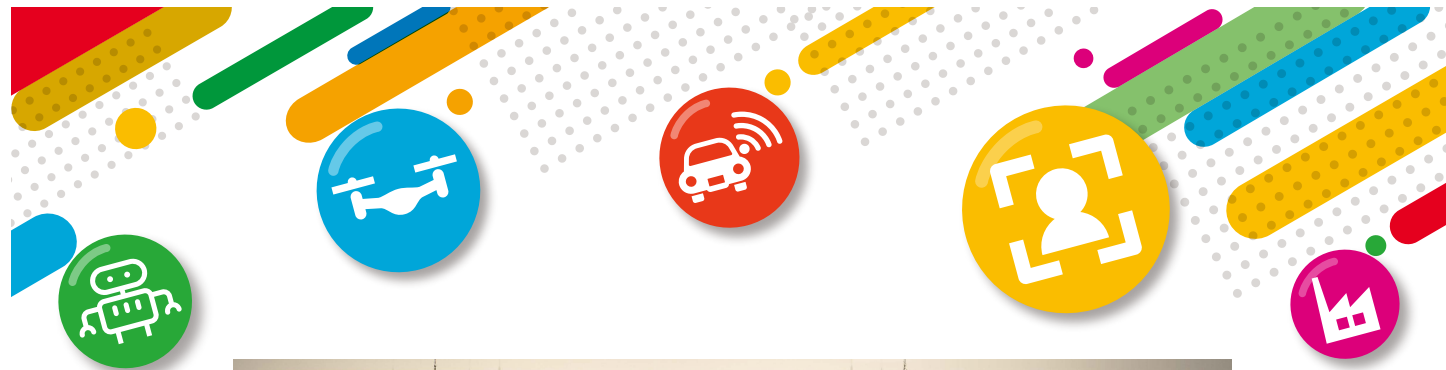




第13期 定時社員総会を開催

2023年5月24日(水)、JAISAの第13期 定時社員総会が東京・品川プリンスホテルで開催され、今年度は役員改選期にあたり19名の理事が選任され、第1回理事会にて新会長に相良 隆義氏が選任されました。続く総会懇親会は約150名が参加され、盛況に行なわれました。



会報JAISA夏号 CONTENTS

特集 第13期 定時社員総会 P1~4

2022年度 新会員企業のご紹介 P5~7

自動認識機器の市場動向調査 P8

2023年度 自動認識技術者資格認定講習・試験のご案内 P9

第25回 自動認識総合展のご案内 P10



第13期定期社員総会



総会懇親会乾杯 鈴木副会長

4年ぶりにホテルを会場にして開催
新会長に相良隆義氏が就任

一般社団法人日本自動認識システム協会は5月24（水）、東京・品川プリンスホテルで2023年度の第13期定時社員総会、通常理事会、総会懇親会を開催しました。会員企業や来賓を会場にお招きしての開催は4年ぶりとなりました。

本総会では、第1号議案で2022年度事業報告及び収支決算について承認、第2号議案で理事・監事の選任を行い、続いて2023年度の事業計画と収支予算を報告して終了しました。その後の理事会で役付き理事の選任を行いました。

今年度は協会役員改選の年であり、新任5名を含む19名の理事が選任され、代表理事会長に相良隆義氏、代表理事副会長に鈴木圭氏、副会長に森田昌洋氏が選任されました。

総会懇親会

総会懇親会には約150名の参加をいただき盛況に開会しました。冒頭に相良新会長は、「自動認識技術はコロナ禍にあっても、従来の対面サービスに代わる新たな機器やシステムが定着して市場が拡大した。当協会の自動認識市場調査報告書では、昨年（2022年1月～12月）の自動認識システム関連機器出荷金額合計は2,565億円で前年対比5.6%の増加、また2023年の市場予測は前年対比5.0%の増加を見込んでおり、自動認識市場の成長は加速する見込み」と述べました。

また、来賓の経済産業省産業機械課課長の安田篤様は、「自動認識総合展では、製造・物流・小売りなどの分野で現場の課題解決に役立つ新製品やソリューションが展示されることを今年も期待する。また一方で、大きな課題となっている物流の2024年問題に向けたドライバーの荷待ち、荷役に関連する効率的な解決策が自動認識技術で実現されることも期待している」と自動認識システムへの期待感をご披露いただきました。懇親会では新任理事の紹介もあり、立食形式で終始和やかな懇談の場となりました。

本年度当協会は、1)会員サービス向上、2)SGDsとDXに貢献、を活動方針として自動認識の普及発展のために取り組んでまいります。



第13期定時社員総会会場



一般社団法人
日本自動認識システム協会
代表理事会長
相良 隆義 氏



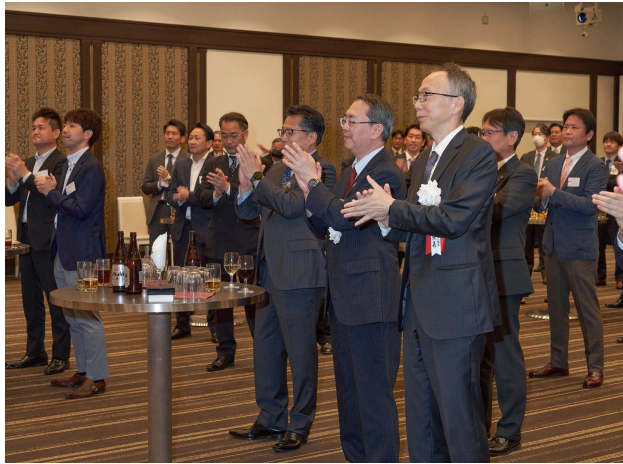
経済産業省
製造産業局 産業機械課課長
安田 篤 様

2023年度理事・監事リスト

（役付役員を除く50音順）

一般社団法人日本自動認識システム協会 理事・監事		
役職	氏名（敬称略）	会社名
代表理事会長	相良 隆義	株式会社デンソーウェーブ 代表取締役社長
代表理事副会長	鈴木 圭	NECプラットフォームズ株式会社 執行役員
副会長	森田 昌洋	オカバマーケティングシステム株式会社 代表取締役社長
専務理事（常勤）	古村 浩志	一般社団法人日本自動認識システム協会
常務理事（常勤）	武藤 健	一般社団法人日本自動認識システム協会
理事	荒木 勉	上智大学 名誉教授
理事	池上 隆介	株式会社日立製作所 サービス&プラットフォームビジネスユニット サービスプラットフォーム事業本部 マネージドサービス事業部 セキュリティサービス本部 担当部長
理事	市野 将嗣	電気通信大学 大学院情報理工学研究科 准教授
理事	岡田 幸紀	アイメックス株式会社 代表取締役
理事	熊本 正宏	株式会社デンソーウェーブ CNビジネス開発室 室長
理事	小平 尚 *	株式会社マストークンソリューション 代表取締役社長
理事	斎藤 英雄	慶應義塾大学 理工学部 教授
理事	笹原 美徳 *	サトーホールディングス株式会社 上席執行役員 兼 株式会社サトー 代表取締役社長
理事	佐藤 誠	東芝テック株式会社 リテール・ソリューション事業本部 商品企画開発統括部 SCMソリューション商品部 担当部長
理事	高嶋 照仁 *	ゼネラル株式会社 代表取締役社長
理事	藤沢 修 *	凸版印刷株式会社 DXデザイン事業部 技術戦略センター長
理事	宝代 彰	株式会社フェニックス 代表取締役社長
理事	松森 邦彦	富士通フロンテック株式会社 シニアフェロー
理事	山本 健太郎 *	株式会社リコー IMS事業本部 マーケティングセンター 所長
監事	小森谷 豊	税理士法人レインボー 代表社員 公認会計士・税理士
監事	平本 純也	アイニックス株式会社 代表取締役

*新任



総会懇親会会場

＜相良代表理事会長 ご挨拶＞ 要旨

長引いた新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、これまでの日常を取り戻しつつあるが、昨年来の為替変動や不安定な世界情勢、物価の高騰も続き、当面は不透明な状況が続くことが想定される。しかし、自動認識業界は、コロナ禍にあっても非接触・自動化の製品やサービスは従来の対面サービスに代わる新たな機器やシステムとして定着が進んでいる。

自動認識技術はこれまでも、無人化、省力化を実現し、AI、ロボット、自動走行などの新技術と融合してデジタル化を促進し、経済の発展と社会生活の利便性向上に貢献してきた。そして、SDGsやDX化によりシステムやビジネス構造変革の中、自動認識技術はDXの基盤技術の一つとしてその変革を支え、進化させる可能性を持つものと確信する。

JAISAでは、引き続きリスクを抑えた堅実で安心、安全な事業運営を行い、自動認識の普及発展のため会員サービス向上をはかって行く。

部会・プロジェクト活動及び自動認識の基礎知識セミナー、資格認定講習・試験などの協会催事は、コロナ禍を受け対面/オンライン併用で開催し、結果として以前より多くの参加をいただいた。特にセミナー、資格認定講習・試験は自動認識システムに関わる人材育成につながる事業であるため、会員企業の更なる活用をお待ちしている。

JAISAが主催する自動認識総合展は、「SDGsとDXに貢献する自動認識システム」を標榜し、デジタル化に欠かせないデータ収集技術として自動認識技術の普及啓発とともに、出展企業のソリューションやサービス、ビジネスモデルを発信し、見て・聞いて・感じて・考えて頂ける機会を得られる場を提供する。

「SDGsとDXに貢献する自動認識システム」の実現に向けては、業界の枠を超え、関係省庁を含め様々な団体と企業による共創・協調可能な事業活動を目指し、当協会が推進役となり、事業環境整備や市場創出の活動を積極的に推し進めていきたいと考える。

2023年度はコロナ禍の長いトンネルを抜け、新たな再スタートの年であり、総会懇親会も4年振りに対面での開催となった。皆様にはこの機会に新たなネットワークをつくり、親交を深めていただきたい。

2023年度JAISA活動の方針

JAISA設立の目的に沿い、自動認識業界の産業振興に直接的・間接的に貢献し業界をリードしていく。そして、我が国経済の発展及び国民生活の向上に寄与する。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、ウィズコロナ環境下でのリスクを抑えた堅実で安心、安全な事業運営を行う。一方で急速に進化するSDGs、DXへの取り組みなど、自動認識の普及発展のため会員サービス向上を方針の柱とする。

事業の運営においては、理事会、企画運営プロジェクトを中心に各事業の進捗を評価し、成果の最大化を図

る。事業環境の変化や進捗状況によっては企画運営プロジェクト及び理事会において継続の是非や内容の見直しを審議し判断する。

1. 自動認識の普及発展のための「会員サービス向上」

セミナー、資格認定事業などを通じて会員企業への情報提供や教育支援等と共に、展示会、システム大賞、Webコンテンツなどによる会員企業からの情報発信の機会を継続的に提供することにより会員サービスの向上を図る。あわせて、当協会の会員であることの利点を広くアピールし、会員を拡充すべく協会の広報活動に注力する。

2. SDGsとDXに貢献する自動認識システム

「SDGsとDXに貢献する自動認識システム」を標榜し、またデジタル化に欠かせないデータ収集技術として自動認識技術が利用されることの普及啓発を推進し、新たな社会課題への対応を会員企業との連携を深めて取り組む。あわせて、各種セミナー事業、資格認定事業、普及啓発活動により自動認識システムに関わる人材育成のすそ野の拡大に注力する。

2023年度JAISA事業計画

1. 広報及び普及啓発事業

展示会やセミナー開催など従来の取り組みについては自動認識ユーザ視点で、新技術や新用途を積極的に取り入れ、活性化に取り組むとともに、新しい普及活動を企画し、会員企業内外に向けた当協会のPR活動、事業展開を行うことで会員企業の事業拡大に貢献する。

1) 第25回自動認識総合展の主催

第25回自動認識総合展を2023年9月13日～15日の3日間、東京ビッグサイトで開催する。「未来をつなぐAUTO-ID－SDGsとDXに貢献－」をテーマに、IoTを活用したデジタル社会とSDGsの目標実現を支える基盤技術としての自動認識技術をアピールする。また、自動認識技術の活用事例等を紹介する自動認識セミナーを併催し、自動認識の潜在ユーザの来場促進を図ると共に、出展社にとっての出展効果を高め、更なる来場者集客増と自動認識技術・ソリューションの普及促進に努める。



第24回自動認識総合展 基調講演



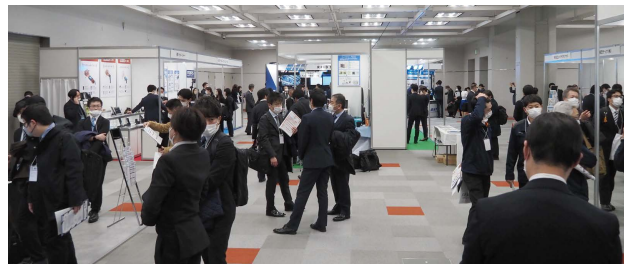
第24回自動認識総合展（東京ビッグサイト）

2) 第21回自動認識総合展・大阪の主催

2024年2月21日～22日の2日間、マイドームおおさかで「第21回自動認識総合展・大阪」及び併催事業である自動認識セミナーを開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努める。



第20回自動認識総合展 大阪 開会式



第20回自動認識総合展 大阪（マイドームおおさか）

3) セミナーの開催

① 自動認識の基礎知識セミナー

自動認識市場の活性化のために提供するサービス事業の一環として、2018年度より実施している「自動認識の基礎知識セミナー」を本年度も引き続き実施する。

- ・集合形式：5回／年実施
- ・開催予定：4月21日、5月18日、6月22日、10月24日、12月7日
- ・講師派遣：申込みにより随時実施する

② JAISA フォーラム

当協会の部会・プロジェクト活動及び研究開発事業の取り組み内容や成果、関連 業界動向等を周知し、自動認識市場の活性化につなげるため「JAISAフォーラム」を開催する。

③ JAISA ビジネスセミナー

新たに会員企業向けに幅広く情報提供を図る場として「JAISAビジネスセミナー」を継続して開催する。自動認識ビジネス及び企業経営に関わる旬なテーマを取り上げ、会員のビジネス推進に有意義な情報を提供する。

4) 自動認識システム大賞

自動認識技術を用いた先進的かつその効果が極めて顕著な優れた応用事例を公募し、各業界の有識者の厳正な審査により、自動認識システム大賞、優秀賞、産経新聞社賞を選定し表彰する。また、各賞は自動認識総合展においてパネル展示し、報道機関に発表するとともに、当協会ウェブサイト及び自動認識技術情報誌「JAISA NOW」で紹介する。

第24回自動認識システム大賞 表彰式



5) 未来の AUTO-ID プロジェクト

自動認識技術に関係する事業者（ユーザー・メーカー等）に対して、自動認識システムの認知度を高め、自動認識市場の発展・拡大に寄与する目的のもと、企画委員会メンバーを中心に「自動認識技術の活用事例の具現化」を体感できる情報発信の新事業企画検討、実施推進をはかる。

6) 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図り、その技術を広く社会に知らしめていくため自動認識技術者資格認定登録を行う。

① 自動認識基本技術者資格認定講習・試験

昨年度より希望者の参加機会の確保と受講者の負担を軽減するために、講習をオンライン（再視聴あり）とし、試験を3か所の会場で同時に実施する方法に変更して、自動認識基本技術者資格認定講習・試験を実施した。今年度も昨年度と同様に実施し、試験会場も6か所とする。

「第50回自動認識基本技術者資格認定講習・試験」

- ・講習：2023年7月4日～7日
- ・試験：2023年7月8日
- ・会場：東京、大阪、仙台

「第51回自動認識基本技術者資格認定講習・試験」

- ・講習：2023年11月7日～10日
- ・試験：2023年11月11日
- ・会場：東京、名古屋、福岡

自動認識技術者資格認定講習・試験 東京会場



② RFID 専門技術者資格認定講習・試験

昨年同様に集合形式にて実施する。

「第18回RFID専門技術者資格認定講習・試験」

- ・講習：2024年2月1日～2月3日
- ・試験：2024年2月10日
- ・会場：JAISA会議室

2. 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、当該市場の市場動向を把握するため、出荷実績調査を実施する。各部会・委員会等から選出されたメンバーで市場統計委員会を構成し、同委員会が中心となり、2023年1月から12月末までの期間の国内企業出荷実績調査、分析及び2024年の市場動向予測を行う。 ※詳細は8Pに掲載

3. 規格の立案及び標準化の推進事業

自動認識業界及び自動認識技術の利用者である産業界の関連団体と協力して、業界の共通課題を解決し、わが国産業の発展に寄与するため、当協会が国内審議団体として活動する標準化会議を開催すると共に、他団体の標準化会議にも積極的に参加し、国際標準化及び国内標準化活動を実施する。

4. 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトは、会員サービスの向上を念頭に、活動を通じて部会員の事業拡大に役立つ“付加価値（会員メリット）”を提供するため、仲間作りの場の提供、業界や関連省庁の最新情報の提供、普及啓発活動、市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見と課題解決への取り組みの場として活動する。

1) 会員への業界情報提供と会員相互交流・親睦

① 情報交流会の開催

自動認識に関連する業界やユーザの動向、導入事例、最新技術、国際規格、国内規格、規制 緩和、関連省庁の最新情報の提供、及び当協会で行っている研究開発事業の活動内容や成果を会員企業と共有するため情報交流会を開催する。情報交流会では、各部会・プロジェクトのメンバーからの課題提起やニーズに基づいてセミナー等を実施する。また、その場を活用して会員相互交流・親睦と親睦を図る。

② 現地視察研修会（見学会）の開催

各部会・プロジェクトのメンバーが、自動認識技術を導入して成果を上げているユーザの導入現場を視察し、自動認識システム導入の背景や効果、課題等について意見交換を行う事によって「気づき」を得られるよう現地視察研修会（見学会）を実施する。



システム部会の見学会



医療自動認識プロジェクトの見学会

2022年度 新会員企業のご紹介

JAISAには2022年度に5社の企業にご入会いただいています。会員企業は、JAISA研究開発センターの部会・プロジェクトに参加して、自動認識システムの関連技術動向や新製品・ソリューションの共有ほか、現場課題の解決など部会の活動テーマに沿って、それぞれのワーキンググループで活動されています。

※掲載は入会順

JAISA会員は133社（2023年6月現在）



社名	参加する部会・プロジェクト					
	バーコード部会	RFID部会	バイオメトリクス部会	システム部会	医療自動認識プロジェクト	画像認識プロジェクト
株式会社野村総合研究所	●	●			●	●
The Qt Company Oy		●	●	●		●
株式会社シービジョン				●		
SGシステム株式会社		●		●	●	
株式会社朝日ラバー		●				

2022年度 新会員企業のご紹介

Qt Group

Qt Group

<https://www.qt.io/ja-jp/>



会社概要

スクリーンを持つあらゆるデバイスのデザイン、開発、テスト、最適化

クロスプラットフォームアプリケーション・UIフレームワーク「Qt (キュート)」、およびGUIテスト、ソフトウェアアーキテクチャ解析・静的解析等の品質保証ツール群の開発、販売、ならびに、これらに関するコンサルティング、開発支援、トレーニングを提供、変化の激しい市場へのスピーディな製品投入を支援します。

- 会社名：The Qt Company Oy
- 設立：1995年
- 本社：フィンランド
- 日本オフィス：東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル4階

お問い合わせ先

Email: japan@qt.io
Tel: 03-6264-4500
ウェブサイト: <https://www.qt.io/ja-jp/>

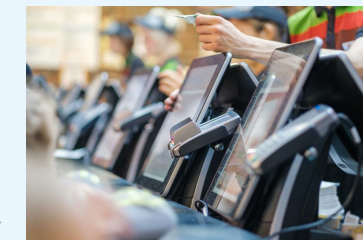
事業および製品概要

開発フレームワーク&ツール

- Qt Design Studio
ビジュアル開発ツールで専門のエンジニアがいなくても手軽にUI/UX開発ができます。
- Qt Creator
OSやハードウェアを問わずに単一のコードを展開し、クロスプラットフォームの開発を支援します。また、軽量のグラフィックエンジンで、滑らかなUI/UXを実現します。

受託開発・コンサルティング

Qt Groupの提供する製品群のエキスパートが、世界各国のプロジェクトで培った知見を元に貴社のプロジェクトをサポートします。



品質保証ツール

- Squish
先進的で直観的な、GUIに特化したテスト自動化ツール
- Test Center
テスト結果管理ツール
- Coco
コードカバレッジツール
- Axivion
ソフトウェアのアーキテクチャ解析と静的解析

NRI

株式会社野村総合研究所
Nomura Research Institute, Ltd.

<https://www.nri.com/jp/>



会社概要

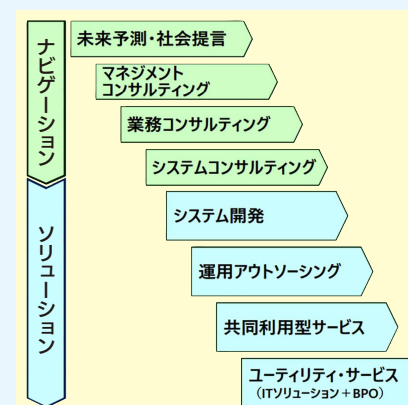
- 会社名：株式会社野村総合研究所
- 創業：1965年4月
- 本社：東京都千代田区大手町1-9-2
大手町フィナンシャルシティ
グランキューブ

企業理念

- 使命：新しい社会のパラダイムを洞察し、その実現を担うお客様の信頼を得て、お客様とともに栄える
- 事業ドメイン：未来社会創発企業
Knowledge Creation and Integration
- 行動指針：真のプロフェッショナルとしての誇りを胸に、あくなき挑戦を続ける



事業概要



- 【コンサルティング】○企業や官公庁に対する。経営コンサルティング、業務コンサルティング、システムコンサルティングの提供
○社会・経済・ビジネス・技術等に関する研究、未来予測、社会提言
- 【金融ITソリューション】○証券業、保険業、銀行業、資産運用業等の金融機関に対する、システムコンサルティング、システム開発および運用サービス、共同利用型サービス等のITソリューションやBPOサービスの提供
- 【産業ITソリューション】○流通業、製造業、サービス業、公共部門に対する、システムコンサルティング、システム開発および運用サービス等の提供
- 【IT基盤サービス】○金融ITソリューションセグメント、産業ITソリューションセグメント等に対する、データセンターの運営管理、IT基盤・ネットワーク構築等のサービスの提供
○外部のお客様に対する、IT基盤ソリューションや情報セキュリティサービスの提供
○先端的な情報技術等に関する研究



株式会社シービジョン
SEE VISION Co., Ltd.

<https://www.see-v.jp/>



会社概要

期待に応えるのではなく、期待以上の満足。ITの力で企業の未来を拓きます。

1991年の創業以来、私たちは“しなやかな知性で次世代を創造する”をモットーに、四半世紀以上にわたり高付加価値システムの構築に取り組んできました。

AI搭載ロボットなどによる生産オートメーション化、音声認識技術を駆使したパーソナルアシストサービスによる意思決定など、かつて人々が思い描いた未来が具現化してきている現代においても、「現場・現物・現実」の「3現」をしっかりと捉え、時代の変化に俊敏に対応します。

日進月歩で変革し続けるIT技術やサービスを日々限りなく追及し、お客様の期待を超える満足をこれからも提供してまいります。

わたしたちは、シービジョンです。

- 会社名：株式会社シービジョン
- 設立：1991年8月14日
- 本社：大阪市中央区
船越町2丁目4-1

事業の概要

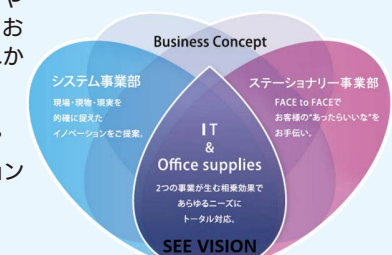
- システム事業部
・システム導入コンサルティング ・システム構築／保守
・システム機器販売 ・パッケージソフト製造／販売

- ステーションナリー事業部
・事務用品／紙製品販売
・システム機器消耗品販売

自動認識ソフトウェア開発特化型のエンジニア集団がDX推進を完全バックアップ

自動認識技術の活用に関しては膨大な経験とナレッジに裏付けられた技術力をもって、全方位からお客様に寄り添います。

自動認識技術別導入比率



- 自動認識システム導入事例
・資産管理 ・トレーサビリティ
・工具持出管理 ・予備品管理
・ゲート入退勤管理 ・棚卸管理

お問い合わせ先

株式会社シービジョン システム事業部 システム営業部
営業担当：下川 shimogawa@see-v.jp
木多 kita@see-v.jp
TEL.06-6920-0001 FAX.06-6942-2887



SGシステム株式会社

SG SYSTEMS Co., Ltd.

<https://www.sg-systems.co.jp/>



会社概要

SGシステム株式会社は、佐川急便をはじめとするSGホールディングスグループのIT統括会社です。

グループのIT活用をリードするとともに、そこで培ったノウハウや知見を活用したサービスをお客さまに提供しています。

「物流×ITのリーディングカンパニー」を目指して、私たちにしか実現できない価値を生み出し続け、これからもお客さまのさらなる成長・発展に寄与していきます。

- 会社名：SGシステム株式会社
- 設立：1983年2月
- 本社：京都府京都市南区上鳥羽角田町25

SGホールディングスグループ

SGホールディングスグループは、佐川急便を中核として、デリバリー、ロジスティクス、不動産、ITなどグループ内のさまざまなリソースを活用し、お客さまが抱える経営課題を、物流を通して解決に導く総合物流企業グループです。



主な事業・サービスの概要

LOGI-IT

ロボティクスを活用した倉庫内業務の自動化ソリューションなど、SGホールディングスグループ内で培ったノウハウを活かし、多数のソリューションをご用意。お客さまの物流業務をIT・ロボティクスでトータルプロデュースします。

- 出荷支援
- 通販支援
- 倉庫管理
- 販促品管理
- テレマティクス
- 物流コンサルティング
- 物流の自動化提案

BPO-IT

佐川急便の伝票入力業務を自動化したAI-OCRの活用など、ITを活用して業務の効率化をお手伝いします。

- AI-OCRを活用した入力業務効率化
- ドキュメント電子化

決済サービス

代金引換サービス「e-コレクト®」を中心に、物流決済事業および多彩な金融サービスを提供しています。

- e-コレクト®（代金引換）
- ネット決済
- B2B決済

担当者から

物流倉庫内の業務を自動化していくにあたり、技術動向や最新情報について勉強させていただければ幸いです。



株式会社朝日ラバー

Asahi Rubber Co., Ltd.

<https://asahi-rubber.co.jp/>



会社概要

ゴムが持つ無限の可能性で未来を創り、持続可能で明るく快適で豊かな社会の実現に貢献します。

- 会社名：株式会社朝日ラバー
- 設立：1976年6月（創業：1970年5月）
- 本社：埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
- 主な事業内容：工業用ゴム製品の製造・販売



シリコンタグ



やわらか保護カバー

お問い合わせ先

株式会社朝日ラバー 営業本部 営業3部（担当：深谷）
TEL.048-650-6055 FAX.048-650-5205
E-Mail：y-fukaya@asahi-rubber.co.jp

事業及び製品概要

当社主要4事業の1つである通信事業において、当社コア技術を活かしたシリコンゴムによるケーシング、封止技術でRFIDタグ、IoTセンサデバイス等を屋外等の過酷な環境から守ります。

製品概要：やわらか保護カバー

ゴム加工メーカーとして長年取り組んできた「シリコン素材」の総合的なノウハウを活かして、実装基板やセンサを保護する“保護カバー”のご提案をいたします。

保護する基板やセンサに合わせて、当社で保有している保護方法・材料・カラーバリエーションから最適な保護カバーをご提案いたします。

■ 特長

○耐衝撃に優れる シリコンゴムが持つ柔軟性により、落下や振動による衝撃から実装基板・電池・アンテナ等を保護します。

○フレキシブル ゴムならではのフレキシブル性で、カバーしても曲げることができます。

○高い防水・防塵性 接着界面で剥離しないため、内側の実装基板・電池・アンテナなどを水やホコリから守ります。

○耐候性の向上 耐UV、耐オゾン、耐防汚など、シリコンゴムの特性により屋外環境での使用が可能となります。

○環境への配慮 製造工程においても実装基板等の耐熱温度以下、無溶剤で加工するため安心です。

2022年自動認識機器の市場動向調査結果

JAISAではこのほど、2022年1月から12月までの自動認識機器の市場動向調査結果を公表しました。2022年の自動認識機器の出荷金額は2,565億円と2021年比5.6%増となりました。また、2023年の自動認識機器の出荷予測金額は2,693億円と2022年比5.0%増としています。

本調査は当会員企業を中心にアンケート調査を行い、111社の回答を取り纏めたものです。

正会員へは「調査報告書」を送付しております。

2022年自動認識機器の市場動向調査ポイント

自動認識機器の前年対比の出荷金額では、バーコードリーダが1.3%増の316億円、バーコードプリンタが5.2%増の430億円、バーコードサプライが1.6%増の1,267億円、RFIDが23.4%増の450億円、バイオメトリクスが1.8%減の25億円、ソフトウェアが7.6%増の77億円でした。

2023年自動認識市場全体の出荷金額は、コロナウィルスの収束で2022年よりさらに市場が活発になり、EC物流、製造、小売、医療、食品関連業界でのさらなる需要増やインバウンド関連も増加することが見込まれ、出荷金額は2022年対比5.0%増の2,693億円と予測しています。また、物価の上昇や原材料、輸送費等の高騰が続くことで、各社製品単価の値上げが始まり、出荷金額が予測値を上回る可能性もあると考えます。

2022年自動認識機器の出荷実績

1.バーコードリーダ
EC物流、小売関連の需要やポイント、キャッシュレス決済、無人受付、発券システムの需要、医療分野での需要は堅調であった。出荷台数は前年対比21.0%減の127万台、出荷金額は前年対比1.3%増の316億円であった。

図表1 自動認識市場の国内市場金額推移

		2018年実績	2019年実績	2020年実績	2021年実績	2022年実績	2023年予測					
		回答 件数 (N=119)	回答 件数 (N=121)	回答 件数 (N=112)	回答 件数 (N=115)	回答 件数 (N=111)	回答 件数 (N=111)					
バーコードリーダー	45	30,984 89.3	38	29,845 96.3	37	28,023 93.9	34	31,198 111.3	33	31,594 101.3	33	32,043 102.0
バーコードプリンタ	42	44,864 104.3	37	45,839 102.2	36	42,336 92.4	34	40,893 96.6	36	43,026 105.2	35	45,895 106.7
バーコードサプライ	45	125,796 104.8	42	127,131 101.1	42	116,963 92.0	40	124,623 106.5	41	126,655 101.6	41	128,688 101.6
RFID	68	35,758 105.4	66	39,073 109.3	70	36,037 92.2	72	36,433 101.1	68	44,974 123.4	67	51,213 113.9
バイオメトリクス	12	3,355 135.2	12	3,875 115.5	11	2,784 71.8	12	2,573 92.4	11	2,526 98.2	11	2,733 108.2
ソフトウェア	37	5,199 104.4	41	6,787 130.5	34	4,827 71.1	37	7,181 148.8	33	7,724 107.5	34	8,769 113.5
合 計		245,956 102.9	252,550 102.7	230,970 91.5	242,901 105.2	256,499 105.6	269,341 105.0					

上段＝出荷金額（百万円）
下段＝対前年比（%）

2.バーコードプリンタ

EC物流の需要が堅調で、製造、医療、飲食店関連の需要が若干戻り、出荷金額は前年対比5.2%増の430億円であった。

内訳として、据置プリンタ本体は、出荷金額前年対比1.6%減の171億円であった。モバイルプリンタは、出荷台数前年対比1.7%減の5万1千台、出荷金額前年対比8.0%増の28億円であった。オートラベラは、出荷金額前年対比33.4%増の82億円。計量器は、出荷金額前年対比4.0%増の127億円であった。

3.バーコードサプライ

EC物流は堅調で、医療、飲食関連の需要が戻りつつあったが、物価の上昇や原燃料、エネルギー、原材料、輸送費等の高騰から各社の製品単価が上がりつつあり、食品、スーパー等の小売業関連の需要の伸びはあまり見られなかった。出荷金額は前年対比1.6%増の1,267億円であった。

4.RFID

多くの業種で省力化、効率化を図るためにRFIDのシステムを取り入れる傾向があり、出荷金額は前年対比23.4%増の450億円であった。

RFIDリーダライタは、出荷台数前年対比2.1%増91万台、出荷金額前年対比64.5%増の129億円であった。RFID(非接触ICカード、RFタグ、その他チップ、インレット等)は、出荷金額前年対比8.9%増の292億円であった。

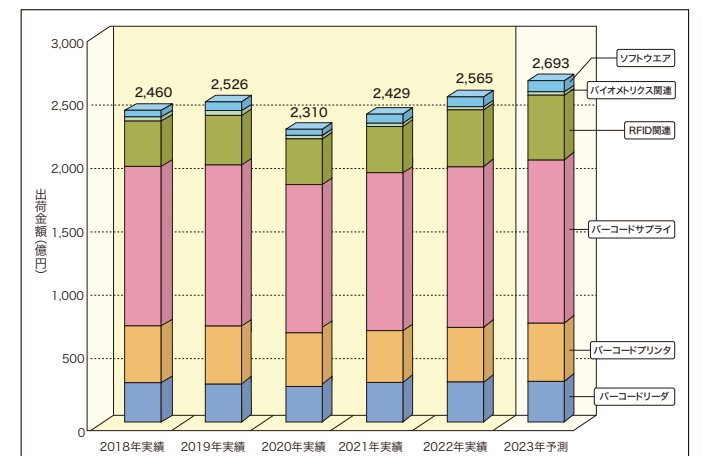
5.バイオメトリクス

今回の調査では昨年より回答社数が減少し、出荷金額前年対比1.8%減の25億円であった。官庁関連、空港、病院、金融、オフィス等の入退室管理、勤怠管理等の需要は堅調であった。

6.ソフトウェア

ソフトウェアは、EC物流、通販、小売、食品、製造業界での需要が堅調で、出荷金額は前年対比7.6%増の77億円であった。

図表2 自動認識市場出荷金額の推移



2023年度 自動認識技術者 資格認定講習・試験

多くの産業分野や私たちの生活で利用されている「自動認識技術」に関する知識を、
提供する人・利用する人に正しく学び習得してもらえるための技術者認定資格です。

自動認識基本技術者資格認定講習・試験	講習：オンライン形式（再視聴あり）	試験：集合形式（全国複数会場）
RFID専門技術者資格認定資格講習・試験	講習：集合形式（JAISA会議室[オンライン受講可]）	試験：集合形式（JAISA会議室）

*自動認識基本技術者資格認定講習・試験は、講習はオンラインで、試験は集合形式で実施します。
*RFID 専門技術者資格認定講習・試験は、講習と試験を集合形式で JAISA 会議室で実施します。
講習のオンライン受講も可能です。



自動認識技術者資格認定講習・試験 概要

■ 目的

自動認識技術を活用したシステムの導入・改善などの技術的ニーズに、的確・迅速な対処ができるよう、エンジニアリング業務、システム業務、販売・販売支援業務に従事する自動認識技術者を育成・拡大するために、一般社団法人日本自動認識システム協会が講習・試験を実施し、合格者の認定・登録を行うものです。

■ 資格等級と対象者

●自動認識基本技術者資格

自動認識技術の基本となる「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」、「生体認証」、「標準化」の4科目の基本となる知識を習得します。
対象は、自動認識システムに携わる企業の新入社員・中堅社員、学生、一般社会人などです。

●自動認識専門技術者資格

「バーコード・二次元シンボル」、「RFID」の各科目の専門的な知識を習得します。

対象は、「自動認識基本技術者資格」を取得されており、さらに専門的な知識の習得を目指す方です。

■ 資格取得者の認定

資格取得者が自動認識技術に関する知識を習得していることを証明するものとして、当協会が登録証、登録証明書を発行します。
また、資格取得者は当協会のWebサイトで氏名を公表しています。

*希望により非公表も有。



登録証見本

■ 講習・試験日程

●第50回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	オンライン講習	オンライン講習(再視聴)	試験(会場集合)
日程	7月4日(火)	7月5日(水)	7月6日(金) 7月7日(金) 7月8日(土)
受講科目	標準化	バーコード	標準化
科目	RFID	バイオメトリクス	RFID

●第51回自動認識基本技術者資格認定講習・試験

	オンライン講習	オンライン講習(再視聴)	試験(会場集合)
日程	11月7日(火)	11月8日(水)	11月9日(木) 11月10日(金) 11月11日(土)
受講科目	標準化	バーコード	標準化
科目	RFID	バイオメトリクス	RFID

●第18回RFID専門技術者資格認定講習・試験

	講習(会場集合)	試験(会場集合)
日程	2024年2月1日(木)～3日(土) 3日間	2024年2月10日(土)

*会場は JAISA 会議室(東京千代田区) オンライン受講可能

■ 受講・受験料

●自動認識基本技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	学生割引料金	受験料(試験のみ)
1回目受験(テキスト有)	40,000円 (税込価格 44,000円)	30,000円 (税込価格 33,000円)		
1回目受験(テキスト無)	32,000円 (税込価格 35,200円)	24,000円 (税込価格 26,400円)	15,000円 (税込価格 16,500円) 毎回	10,000円 (税込価格 11,000円) 毎回
2回目受験(テキスト有)	15,000円 (税込価格 16,500円)	15,000円 (税込価格 16,500円)		

●RFID専門技術者資格認定講習・試験

受験回数	一般	会員割引	受験料(試験のみ)
毎回	50,000円(税込価格 55,000円)	40,000円(税込価格 44,000円)	20,000円(税込価格 22,000円)

■ お問い合わせ

(一社) 日本自動認識システム協会 事務局

Phone 03-5825-6651 license@jaisa.or.jp

www.jaisa.or.jp



AUTO-ID & COMMUNICATION EXPO 第25回 自動認識総合展

2023.9.13^{WED} - 15^{FRI}
10:00-17:00 東京ビッグサイト 東ホール

ゾーン 展示 モバイル&ウェアラブルゾーン
画像認識ゾーン



A BRIGHTER FUTURE WITH AUTO-ID

未来をつなぐ AUTO-ID

— SDGsとDXに貢献 —

主催：一般社団法人日本自動認識システム協会

併催事業：BTSpice 自動認識セミナー

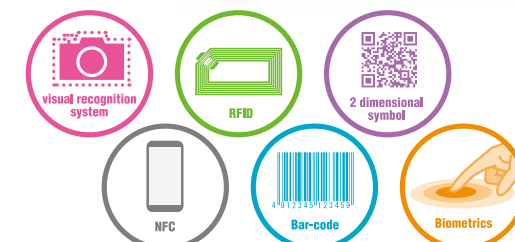
www.autoid-expo.com



公式サイトはこちら

展示会事務局 (株) シー・エヌ・ティ

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-24-3-4F TEL: 03-5297-8855 FAX: 03-5294-0909 info@autoid-expo.com



会報 JAISA 第75号 発行所：一般社団法人日本自動認識システム協会 発行人：専務理事 古村浩志

事務局：〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-9-5 FKビル7F TEL: 03-5825-6651 FAX: 03-5825-6653 https://www.jaisa.or.jp/